

第2学年音楽科学習指導案

日 時：令和4年11月9日（水） 5校時

学 級：花巻市立花巻中学校 2年3組

会 場：第1音楽室

授業者：菅原 広人

1 題材名 曲想とそれを生み出す要素を感じ取りながら「交響曲第5番」を味わおう

教材名 L.v.ベートーヴェン作曲 「交響曲第5番ハ短調 作品67」

2 題材について

(1) 生徒について

男子16名女子18名計34名の生徒は、音楽に対する基本的関心は高い。自己表現をあまり得意と感ぜない生徒が多かったため、4月以来、意図的に思いや考え、感情の交流を図る場面を設定してきた。その取り組みを続けた結果、先日行われた合唱コンクールの練習（授業・学級）においては、詩の読み取りや表現の工夫について、対話的な学び合いにより思いや考えを交流し、音楽表現が深められる場面が見られた。

積極的挙手発言があまり多いとは言えないクラスであるが、少人数グループや生活班を単位として発表の場を増やすことにより、少しずつ交流発表が増え、音楽活動が深まり楽しめるようになってきた。

(2) 教材について

L.v.ベートーヴェンは、ウィーン古典派を代表するばかりでなく、いわゆるクラシック音楽を代表する作曲家の一人である。

彼の作品と音楽性、さらには生き方にふれ、音楽文化を代表する作品のよさや美しさを味わうことのできる本題材は、音や音楽、音楽文化に親しんでいく態度を養うことができるものであると考える。

今回取り上げる『ソナタ形式』に関しては、『フーガ』のように厳格なものとしてではなく、ベートーヴェンが工夫し発展させ、そこから自由に広がりをもたせたものとして、柔軟な鑑賞を促すよう指導したい。

一方『ソナタ形式』の概念が広まったのは、ベートーヴェンの没後であるという事実からも、あまり形式に束縛されない自由な鑑賞を保障したい。

『動機』については、同じリズムで統一されつつ変化していくおもしろさに気付かせるため、全楽章の一部分を鑑賞させ作曲者の創意工夫にふれさせたい。

(3) 指導について・研究との関わり

本題材は、将来にわたってより良い音楽を求め続ける生徒を育成するという観点から、「交響曲第5番」の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解させるものである。鑑賞学習を通して、音楽活動を楽しみながら音楽文化に親しみ主体的に音楽に関わり続ける生徒の育成を目指したい。

「主体的に学び続ける生徒の育成」～いわての授業づくり3つの視点からの授業改善～

①学習の見通し

作品冒頭（第2主題提示直前まで）において作曲者の動機に対するこだわりと工夫を感じ取らせ、その他楽章への広がりや深まりを聴きとる前段から、後段では「リズム」「音色」「旋律」にポイントを絞り第1主題と第2主題の比較聴取、さらにはソナタ形式のおもしろさを発見する学習活動を行う。

②学習課題を解決するための学習活動

ベートーヴェンの人生を当時の社会情勢と関わらせながら学ばせるとともに、彼の作品と関連付けて鑑賞し、これらの音楽の自分にとっての価値について対話的に価値を深めさせたい。

	動機の現れ方用いられ方、第1第2主題の現れ方や特徴について聴きとる。				ウ) 展開部の工夫 エ) 再現部の味わい
2	・ベートーヴェンの人生を、当時の社会情勢および生徒の歴史的知識と関わらせながら学ぶとともに、彼の作品と関連付けて鑑賞し、自分にとっての価値についてまとめ交流し、対話的に価値を深める。		○	○	・ベートーヴェンの人生と社会、文化、歴史の関わりについて説明を聞いたり知識を交流したり、調べたりしながら、主な作品についてそのよさや美しさをまとめる。

3 本時について

(1) 目標

- ① 第1楽章冒頭（第2主題提示直前）、続いて第2～第4楽章冒頭を鑑賞し、動機の特徴とその変化、反復等についての特徴を理解する。
- ② 第1楽章提示部の第1、第2主題を比較して聴き、リズム、音色、旋律の特徴について理解する。
- ③ 第1楽章を鑑賞しながら、主に以下の観点で曲のおもしろさについて聴き取ったことをまとめる。
 - ア) 動機とその現れ方、使われ方
 - イ) 第1主題と第2主題の対比
 - ウ) 展開部の工夫
 - エ) 再現部の味わい

(2) 評価規準

- ① 第1、第2主題の特徴を比較的に感受し、その違いをリズム、音色、旋律の特徴などから説明できる。
- ② 第1楽章全体を鑑賞し、次の点について自分の気づきや他からの学びを記述している。
 - ア) 動機とその現れ方、使われ方
 - イ) 第1主題と第2主題の対比
 - ウ) 展開部の工夫
 - エ) 再現部の味わい

(3) 本時の指導構想（研究主題との関わり）

- ① 動機の現れ方、それを巧みに用いた第1第2主題の対比、それらが展開・再現されていく『ソナタ形式』という流れを追うことで、鑑賞のポイントを明確にし学習の見通しを持たせる。
- ② 動機の巧みな用法等については集中した個人学習、第1第2主題の対比については小集団交流を通じた学び合い、ソナタ形式のおもしろさについてはクラスでの共有、といったように課題解決にふさわしいと考えられる学習活動を設定する。
- ③ 学びが、個人のレベルで完結しないよう対話的な場面を設定しつつ、個人の学びがより深まり、学習が振り返られるような場、ワークシートを設定する。

(4) 展 開

段階	学習内容・学習活動	指導上の留意点	●評価
導入 8分	<p>1 第1楽章冒頭（第2主題提示直前）までを鑑賞し、動機とその反復等について、気付いたことを発表交流する。</p> <p>2 同部分において動機が何回使用されているかを聴きとる活動を通し、動機にこだわり作曲された曲であることに気付く。</p> <p>・動機が第2、第3、第4楽章でどのように使われ表れているか聴きとる。</p>	<p>・「何に気付くか」と投げかけ自由な発想の鑑賞からリズム、反復などのキーワードを導き出したい。</p> <p>・様々な楽器により提示される動機をじっくり聴きとり作曲者の動機操作一作品にこめた思いに気付き、本時の学習に見通しと意欲を持つ。</p>	<p>●動機の特徴とその変化、反復等の特徴について理解している。</p> <p>【知識・技能】</p>
<p>学習課題 リズム、音色、旋律、形式に注目して「交響曲第5番」を味わおう</p>			
展 開 27分	<p>3 第1楽章提示部第1、第2主題を比較して聴き、リズム、音色、旋律の特徴について、感受したことを知覚してまとめ、発表交流により共有する。</p> <p>（個人⇒小集団⇒学級）</p> <p>4 第1主題と第2主題が、巧みに動機を使って作られながらも、対比的な印象を与えるものであることに気付く。</p> <p>5 ソナタ形式の特徴を知る。</p>	<p>・鑑賞のポイントを絞り、（リズム、音色、旋律）音楽の変化への気付きを促す。</p> <p>・モニターに第1第2主題冒頭部のスコアを映し、音だけでなく『見た目』で比較させる。</p> <p>例） 「ごちゃごちゃしている」＝リズムか細かい 「全体が白い」＝音が長い 「下が混みあっている」＝弦楽器が多用されている</p> <p>・時間の流れが感覚的につかめるよう図示する。</p>	<p>●第1楽章提示部の第1、第2主題を比較して聴き、リズム、音色、旋律の特徴等について理解している。【知識・技能】</p>
終 末 15分	<p>6 ソナタ形式を時系列でとらえながら動機の現れ方用いられ方、第1第2主題の現れ方や特徴について聴きとる。</p> <p>7 聴きとった曲のよさや美しさ、おもしろさについて発表するとともに、他の発表から自分が気付かなかった観点を学びあう。</p>	<p>・鑑賞しながら時間の流れがつかめるよう、今どの部分を鑑賞しているのかを視覚的に示す。</p>	<p>●第1楽章を鑑賞し、主に以下の観点で、曲のよさや美しさ、おもしろさについて聴き取ったことを記述している。</p> <p>ア) 動機とその現れ方、使われ方 イ) 第1主題と第2主題の対比 ウ) 展開部の工夫 エ) 再現部の味わい</p> <p>【思考・判断・表現】</p>